

## 茅場復元による生物多様性の 保全と環境農法の促進

活動地域  岐阜県揖斐川町春日

つづける助成

3年目

実践

茅場復元 3ha

茶摘み等のエコツアー 82人

今年度計画の達成度 90%

目標達成度 85%



カヤとササ刈り

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

茅場は急斜面が多く足場も悪いため、カヤやササの刈取りは容易ではない。さらに重いため、刈取ったあとに結束して車まで運ぶ搬出作業が大変な重労働であった。

#### ■ 工夫した点

刈取った後、半日もしくは1日天日に干し、カヤやササの水分が蒸発し軽量となってから搬出の作業を行った。また、日射病対策として太陽が陰ってから敷設作業を行った。

### 課題

ササユリやカタクリは茅場を代表する植物である。かつては茅場のカヤやササを堆肥にする環境農法が行われていたが、現在は茅場が放置され、生物多様性も乏しくなっている。

### 目標

放置されたままの茅場を復元し、カヤ等の青草を堆肥にする環境農法を復活させる。植生が豊かになることで、茶畑の景観が向上し、都市農村交流を活性化させながら地域振興に繋げる。

### 活動内容と成果

- 放置された茅場を3.0ha復元するとともに、刈り取ったカヤやササを茶畑に搬送し敷き詰めた
- 春に茶刈り体験ツアー、夏に紅茶と釜炒り茶づくりツアー、冬に三年番茶ツアーを実施し、計82人の参加があった
- シンポジウムを開催し、町長を含め約100人の参加があり、岐阜新聞にその模様が掲載された
- 茅場復元によって除伐した材を薪にして三年番茶焙煎の燃料用に提供した



茶畑と復元茅場にある遊歩道絶景ポイント



復元茅場の植生調査

### 全助成期間の活動を振り返って

目標とした茅場の復元は面積的には達成できたが、里山指標植物であるササユリやカタクリの再生をプロット内で確認することができなかった。理由はシカ等の食害であることが植生調査より明らかになった。環境農法の促進に関してはカヤやササ、青葉や落葉を敷いてある畑が目立って増えてきており一定の成果があった。また持続可能な集落形成をシンポジウムで課題として取り上げたところ、町もその方向で動き出したことが特筆される。

〒509-0258  
岐阜県可児市若葉台三丁目166番地  
電話：090-7035-9222  
E-mail：sk.ktok3@gmail.com



### 今後の 展望

復元した茅場を通る遊歩道が「岐阜のマチュピチュ」として何度もマスコミに取り上げられ年間4万人が訪れる観光スポットとなった。一方で岐阜県揖斐川町春日は他の中山間地域と同様、過疎化と高齢化が急速に進んでおり典型的な限界集落となっている。今後消滅集落とならないためには、豊かな自然とお茶を利用したグリーンツーリズムの促進を図り、都会より多くの人を呼び寄せ、魅力ある里山生活を提案しながら関係人口の増加に貢献したい。